

# 平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

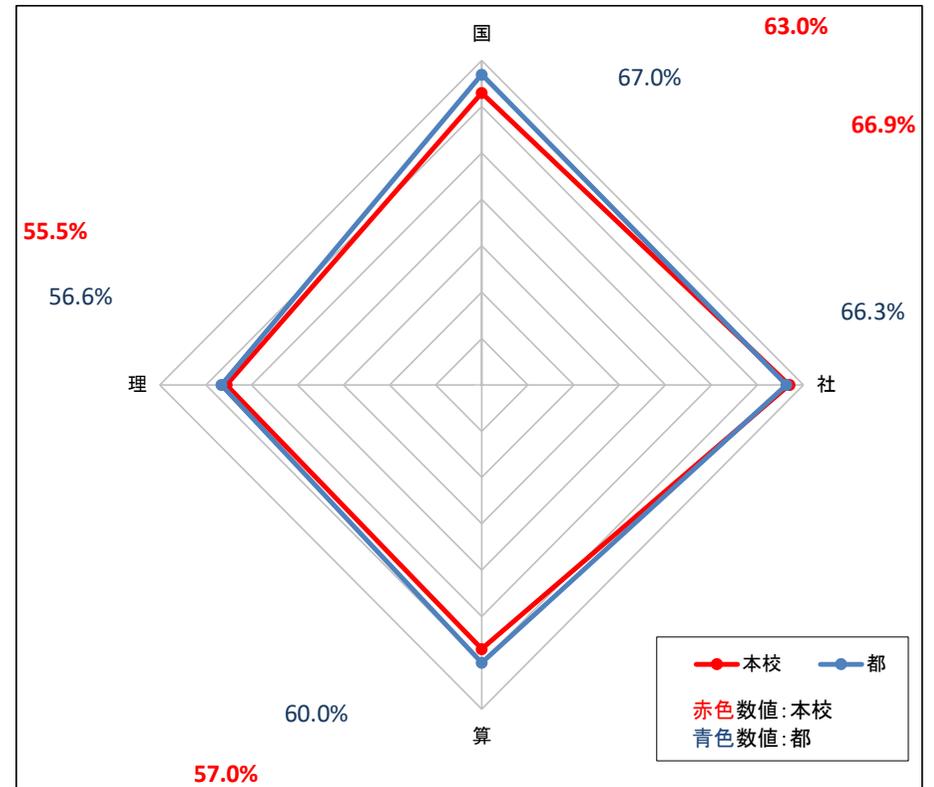
#N/A

国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	65.9%	70.9%	67.1%	65.9%	67.0%
本校	61.7%	71.6%	61.5%	61.0%	63.0%
都との差	-4.2	0.7	-5.6	-4.9	-4.0

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象について の知識・理解	
東京都	63.1%	66.5%	69.8%	66.3%
本校	63.0%	67.7%	70.1%	66.9%
都との差	-0.1	1.2	0.3	0.6

算数	教科の観点			教科の合計
	数学的な考え方	数量や図形について の技能	数量や図形について の知識・理解	
東京都	46.4%	65.2%	67.8%	60.0%
本校	41.4%	62.7%	65.2%	57.0%
都との差	-5.0	-2.5	-2.6	-3.0

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象について の知識・理解	
東京都	52.9%	66.4%	55.0%	56.6%
本校	47.3%	70.5%	54.5%	55.5%
都との差	-5.6	4.1	-0.5	-1.1



## 《都との比較にみる本校の状況》

- ・国語科は、「書く能力」の正答率が都の平均より上回っている。一方で、「読むこと」の正答率が都の平均を約6%下回っている。
- ・社会科は、どの領域も都の平均とほぼ同じか上回っている。
- ・算数科では、どの領域も都の平均を下回っている。特に「数学的な考え方」の正答率が、都平均より5%下回っており、課題がある。
- ・理科は、「技能」の正答率が、都の平均を約4%上回っている。一方で、「思考・表現」の正答率は、約5%下回るなど領域での差が大きい。

## 《授業改善のポイント》

- ・各教科の「知識・理解」については、東京ベーシックドリル等を定期的に活用し、基礎学力の定着を図る。語彙不足を補うため、辞書の活用や語彙を書き留める学習を日常的に指導する。
- ・学年間で得意なところと不得意なところを共有しながら、学習を進める。既習事項を活用した授業改善を図る。
- ・国語科では、新聞やパンフレットなどの資料を活用し、必要な情報を関連付けながら読む活動を通して、読む力を育てる。読む活動を充実させることで、言語の力を養い、日常生活や他教科の学習に生かす。
- ・社会科では、提示した資料から課題を見付け、多角的に考え、考えたことを適切に表現する活動を位置付ける。
- ・算数科では、知識理解や技能を反復することで定着させる。考え方の育成として、自分の考えを図や式、言葉などを用いて説明する活動を設定する。想定されるつまづきに応じた補助的な発問や支援を行う。
- ・理科では、予想や仮説を考えさせ、見通しをもって学習に取り組めるようにする。自分の考えを図や絵を用いて表現し、グループで話し合う場面を設定する。

## 《家庭・地域への働きかけ》

- ・調査結果を基に、家庭と児童の詳細な学習情報を共有し、補習教室や個別の指導を通して、学習の定着を図る。家庭でも学習支援の協力をお願いする。
- ・6年生「学力調査」、5年生「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果と結果分析を保護者に通知し、学校・家庭・地域で共有する。
- ・学校便り、ホームページ、学校公開等を通じて、家庭・地域に学校経営方針や学習指導要領の改訂による学校教育(行事、指導等)の変化を共有し、連携して児童を育てていくように働きかける。